

氏名	河 原 義 文		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2370 号		
学位授与の日付	平成 4 年 3 月 28 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	LH, FSH, PRLの律動性分泌よりみた加齢に伴う視床下部-下垂体系機能の変化		
論文審査委員	教授 太田 善介	教授 産賀 敏彦	教授 清野 佳紀

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

加齢および両側卵巣摘出に伴うLH, FSH, PRLの律動性分泌(pulse)の変化を明らかにするため、卵胞期前期の成熟婦人(A群), 両側卵巣摘出後の成熟婦人(B群), 高齢婦人(C群)を対象に, RIA法にて血中LH, FSH, PRLを測定し, それぞれの律動性分泌について検討した。

LHの律動性分泌を認める症例は, A群91.0%, B群0%, C群44.4%, FSHの律動性分泌を認める症例は, A群45.5%, B群0%, C群0%, PRLの律動性分泌を認める症例は, A群36.4%, B群40.0%, C群33.3%であり, LHとFSHの律動性分泌に関しては, 加齢および両側卵巣摘出によりその出現patternに相違があり, PRLの律動性分泌に関しては, 加齢および両側卵巣摘出により変化しないことが示された。またFSHとLHのpulseは一致することが多く, PRLとLHのpulseは一致しないことが多かった。このことは, LH, FSHとPRLの律動性分泌発生機序は異なる可能性が示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は加齢及び両側卵巣摘出に伴うLH, FSH, PRLの律動性分泌の変化を明らかにするため, 卵胞期前期の成熟婦人, 両側卵巣摘出後の成熟婦人, 高齢婦人を対象に, RIA法にて血中LH, FSH, PRLを測定し, それぞれの律動性分泌について検討したもので, その結果LH, FSH, PRLの律動性分泌発生機序は異なる可能性を示唆した。これは臨床

的に価値ある業績である。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。